

第1学年国語科学習指導案

日時：令和〇年〇月〇日(〇)〇校時

学級：第1学年〇組〇名

場所：1年〇組教室

授業者：〇〇 〇〇

1 単元名

「竹取物語」のイチオシの登場人物を紹介しよう。～蓬莱の玉の枝―「竹取物語」から―

2 単元の目標

- (1) 音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。
[知識及び技能] (3)ア
- (2) 場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。
[思考力,判断力,表現力等] C(1)イ
- (3) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする事ができる。
[思考力,判断力,表現力等] C(1)オ
- (4) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝えようとしている。
「学びに向かう力,人間性等」

3 単元について

(1) 生徒の実態

本単元の目標である「場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えることができる。」(C読むこと(1)イ)と「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする事ができる。」(C読むこと(1)オ)の二つの資質・能力について、1学期に「シンシユン」を学習し、物語の展開や登場人物の心情の変化に心を揺さぶられ、そのことを通じて捉えた登場人物の相互関係や自分の考え等を素直に表現する力が身に付いている。また、文学的な文章の場面の展開や人物の関係、心情の変化を捉えることが好きな生徒が多く、文章を読んで理解したことに基づき、自分の考えを確かにする活動も意欲的に取り組むことができる。これらの実態から古典の学習においても、登場人物の相互関係や心情の変化などに興味をもって取り組むことができると予想される。

古典の学習においては、小学校で、百人一首や「竹取物語」「平家物語」の冒頭部分の音読を通じて、今と昔で仮名遣いや使われている語句が違うことは知っているが、古典の基本的なきまりや、中学校で初めて出会う語彙に不安を感じ、苦手意識や古典を難しいものと捉える生徒も多くいる。また、学習を積み重ねることに課題がみられる生徒がいることも踏まえ、本単元では、生徒それぞれの興味を引き出し、資質・能力を伸ばすことができるように、単元における課題の提示や学習計画を工夫し、生徒自らが主体的に学びに向かうことが重要と考える。

(2) 教材について

前単元では、「いろは歌」を基に、音読を通して古典特有のリズムの面白さを味わう学習を行っている。また、歴史的仮名遣いと現代仮名遣いの違いを捉えることを通じて古文独特の言葉の感覚に親しんでいる。本単元の「竹取物語」については、有名な御伽草子であり、「かぐや姫」の物語として、どの生徒にとっても親しみやすく、内容を捉えやすい教材である。ただ、小学校の学習から『竹取物語』を暗唱や暗記するものと捉える生徒が多く、本単元では、「竹取物語」のもっている「物語としての魅力」を捉えていきたい。

また、物語としての魅力も多い。多様な人間模様や相互関係の在り方は魅力の最たる例であり、傲慢であったり、ずる賢かったり、誠実であっても報われなかったりするそれぞれの貴公子や苦悩するかぐや姫など、読み進めていく中で自らの共通点や相違点を感じながら深められることが、古典のおもしろさにつながると考える。

(3) 指導について

学習指導要領（平成29年告示）解説国語編によると、第1学年「C読むこと(1)オ」では、「文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりし、それを他者に説明したり、他者の考えやその根拠などを知ったりすることを通して、改めて自分が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることで自分の考えを確かなものにする」とが求められている。

そこで本単元では、次のように指導を行う。

- ① 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにするを単元のゴールとし、「竹取物語」の登場人物（主に五人の貴公子）の中から一人を選び、紹介する言語活動に取り組む。
- ② 単元のゴールに向かって、粘り強く、見通しをもって学習に取り組めるように、単元の初めに、学習内容を理解し、学習計画を考える時間を設け、必要な準備や活動の在り方について検討した上で学習に取り組ませる。また、振り返りを毎時間行い、学習の現在地を確認する活動を行う。
- ③ 登場人物の紹介において、独りよがりな解釈に頼るのではなく、「竹取物語」の内容を理解し、自分の考えの根拠を文章に求める姿が求められる。そのためには、歴史的仮名遣いや語句の違いなどを理解し、古文を読む力を習得することが重要である。また、文章に出てくる語句や、物の名称の理解を深めるため国語便覧やICTを活用したりして、生徒の語感を養う工夫を心がける。また、日常の学習で活用している「言葉ノート」を活用し、新たな言葉との出会いの場としたい。

(4) 生徒が「読み解く力」を、高め、発揮している姿とそのための手立て

<p>【「読み解く力」の二つの側面】</p> <p>A…主に文章や図、グラフから読み解き理解する力</p> <p>B…主に他者とのやりとりから読み解き理解する力</p>	<p>【「読み解く力」の三つのプロセス】</p> <p>①…発見・蓄積：必要な情報を確かに取り出す</p> <p>②…分析・整理：情報を比較し、関連付けて整理する</p> <p>③…再構築：自分なりに解決し、知識を再構築する</p>
--	--

【再構築をしている生徒の姿】

- A③…古文の音読に必要な文語のきまりを理解して音読し、古典の世界に親しんでいる。
- A③…文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをもっている。
- B③…話し合い活動を経て、改めて自分の考えるイチオシの登場人物についてまとめ、考えを確かにしている。

【発見・蓄積&分析・整理をしている姿】

- A②…複数の登場人物の読み比べをして、必要な情報を読み取っている。
- A①②…登場人物に関する情報が読み取れる描写を発見、蓄積している。そして、複数の描写を比較・分析し、結び付けて登場人物の心情の変化、人物の関係、人物像などを解釈している。
- A②…「竹取物語」の登場人物と自分たちの共通点・相違点を考えている。
- B①…登場人物に関する他の人の意見を理解している。
- B②…解釈した内容について、自分自身の考えや価値観と比較し、イチオシの登場人物を選んでいる。
- B②…話し合い活動の中で、他の人の意見を聞きながら登場人物に関する情報を分類している。

【「読み解く力」を高め、発揮するための手立て】

- ・古文の音読ができるようになることや、登場人物の紹介に向けて様々な情報を見つけることができるように、生徒の目的に応じて、教科書以外の「竹取物語」の部分も読めるようにする。
- ・学習を進める中で、生徒が疑問に感じたことをいつでも調べることができるように、関連する図書資料やタブレットを活用する。
- ・古文の音読に必要な文語のきまりを理解して音読できるように、同じ場面をえらんだ生徒でグループを作り、音読したり、古語の意味を確認したりする。
- ・自分の考えを確かにするため、同じ登場人物を選んだ生徒でグループを作り、共有する。
- ・何を（自分のイチオシの登場人物やその根拠について不確かな部分や疑問点等）、何のために（イチオシの登場人物を紹介する根拠を確かにするために）、どのように（他者の考えの中から、「自分の考えを確かにできる情報を取り入れられるように）交流するのかを明確にする。
- ・生徒のより主体的な交流を行うため、交流したい人を自分で選べるようにする。
- ・交流における自分や他者の紹介を動画で記録し、よい紹介内容をみんなで共有したり、後から聞き返したり、最初の自分の紹介内容と比較したりできるようにする（タブレットの活用）。

4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。	①「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。 ②「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。	①積極的に古文を音読し、登場人物の相互関係や心情の変化を捉え、学習の見通しをもって、「竹取物語」のイチオシの登場人物を紹介しようとしている。

5 指導と評価の計画（全8時間）

※実線は、「読み解く力」のAの側面、波線は、Bの側面に関わる留意点や評価規準

次	時	主な学習活動	指導上の留意点・ICTの活用	評価規準（評価方法）
【事前】		③「竹取物語」に関する様々な現代作家の現代語訳・漫画・絵本を用意し、学習までに物語にふれる。	・生徒の目に留まりやすい廊下などの共有スペースなどに図書資料を設置し、興味・関心をもち、内容を理解できるようにする。	
	1	①登場人物の紹介が単元のゴールだと理解し、登場人物を紹介する内容について検討する。 ②さまざまな古典作品や「竹取物語」の冒頭部分に触れ、古文の特徴をつかみ、これからの学習の見通しをもつ。	・身近な例で考えたり、授業者が見本を示したりすることを通して、「イチオシの登場人物を紹介する」という目的意識と見通しをもって、学習に取り組めるようにする。 ・単に今と昔の相違点を挙げるだけでなく、現代の文章との共通点や読み継がれる魅力はどこにあるのかを考えることで、学習に対する関心をもてるようにする。	
二	2	③古文と現代の文章との違いを確かめ、古文の基本的な知識（仮名遣い・文末の言葉・言葉の意味の違い）について学習する。 ④歴史的仮名遣いに注意して音読する。	・古文と現代の比較を通して、 <u>歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直すときのルールを理解できるようにする。</u> ・音読することで、歴史的仮名遣いなどの現代の文章との違いを楽しめるようにする。	[知識・技能] ①（ワークシート）
	3 4	⑤五人の貴公子からの求婚の場面（教科書P159～162L6、資料）、帝からの求婚とかぐや姫の昇天の場面（教科P162L71～164最後）を学習し、全体のあらすじを知	・教科書やその他の資料を用いて「竹取物語」のあらすじを理解できるようにする。 ・教科書の古文を音読する。 ・くらもちの皇子だけでなく、石作の皇子、右大臣阿倍御主人、大納言大伴御幸、中納言石上麿足それぞれの求婚にまつわる資料	[知識・技能] ①（観察）

		<p>る。</p> <p>⑥五人の貴公子からの求婚の場面について、複数の資料から情報を整理し、選ぶ。</p>	<p>を用意し、内容や登場人物の特徴が理解できたところで、「イチオシの候補」を挙げ、「もっと知りたい」という思いを生徒から引き出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物への興味・関心が広がり、より深い理解となるように国語便覧等の資料を活用する。 ・内容理解に留まることがないように、好意を寄せる相手へのアプローチの在り方の違い等を読み取り、自らの生活と照らし合わせて考えることを意識できるようにする。 ・資料から五人の貴公子について捉えたことを共有し、イチオシの登場人物を選ぶことができるようにする。 ・学んだ音読に必要な文語のきまり等を意識し、自分が選んだ登場人物に関する古文を音読する。 	<p>[知識・技能] ① (観察)</p>
三	5	<p>⑦イチオシの登場人物について、複数の描写を基に、登場人物の心情の変化、人物の関係、人物像などについて解釈し、自分の考えをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ場面を選んだ生徒でグループを作り、音読したり、古語の意味を確認したりする。 ・それぞれの登場人物の行動やその結果、性格などを比較することを通して、イチオシのポイントを自分なりに考えることができるようにする。 ・それぞれの登場人物の特徴について、多くの情報に触れることができるように、関連する資料やタブレットを活用する。 ・イチオシの登場人物について、<u>複数の描写(情報)を結び付けて、考えを形成できるようにする。</u> 	<p>[思考・判断・表現] ① (ワークシート・観察)</p>
	6	<p>⑧イチオシの登場人物について、同じ考えの人と交流しながら、自分の考えを確かにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>同じ登場人物を選んだ生徒でグループを作り、交流することを通して、考えを確かにする</u>ことができるようにする。 ・<u>タブレットを用いて、それぞれの考えを共有できるようにする。</u> ・<u>目的や内容を明確にして、交流</u>ができるようにする。 	

		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを確かなものにして いる生徒の姿を全体で共有し、 考えを確実にするとはどういう ことか、確実にするために必要 なことは何かを理解できるよう にする。 	[思考・判断・表現] ② (ワ ークシート、撮影された動 画)
7 本 時	⑨ イチオシの登場人物 について、同じ考えの 人と交流し、紹介する 内容を吟味して、再度 考えをまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>目的に応じた交流を行うことが できるように、生徒が交流した い人を自分で選べるようにす る。</u> ・ <u>タブレットを用いて、それぞれ の考えを共有できるようにす る。</u> ・ <u>目的や内容を明確にして、交流 ができるようにする。</u> ・ <u>必要に応じて、自分や他者の紹 介を動画で記録し、後から聞き 直したり、最初の自分の紹介内 容と比較したりできるようにす る。</u> ・ <u>交流を通して、再度、自分の紹 介の内容について考えをまとめる 時間を設ける。</u> 	[思考・判断・表現] ② (ワ ークシート・撮影された動 画)
8	⑩ イチオシの登場人物 を違う人物を選んだ 人に紹介する。 ⑪ 単元での学習を振り 返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる登場人物を選んだ生徒で グループを作り、交流をする。 ・単元での学習を通して、「できる ようになったこと」「これからの 学習に生かしたこと」等の視点 で振り返ることができるように する。 	[主体的に学習に取り組む 態度] (ワークシート・発表)

6 本時の目標（本時：7／8時間目）

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。

（C読むこと(1)オ）〔思考力,判断力,表現力等〕

7 本時の評価規準

「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。

（思考・判断・表現②）

8 本時の展開 ※実線は、「読み解く力」のAの側面、波線は、Bの側面に関わる留意点や評価規準

	主な学習活動等	指導上の留意点(・) ICTの活用(☆) 評価規準(□)
導入	1 これまでの学習の振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のゴールを確認し、前時の学習内容について振り返り、本時の学習内容について考える。
	2 今日の学習内容を知る。	
	本時のめあて : イチオシの登場人物の紹介内容をより確かにしよう！！ 学習課題 : 自分の考えをより確かにするポイントは？	
		<ul style="list-style-type: none"> ・前時で学習した「自分の考えを確かにする」ことについて確認する。
展開	3 イチオシの登場人物の紹介の準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の選んだ登場人物の紹介について、注目した描写や根拠を整理する。 ・目的に応じた交流を行うことができるように、生徒が交流したい人を自分で選べるようにする。 ☆タブレットを用いて、それぞれの考えを共有できるようにする。 ・何を（自分のイチオシの登場人物やその根拠について不確かな部分や疑問点等）、何のために（イチオシの登場人物を紹介する根拠を確かにするために）、どのように（他者の考えの中から、自分の考えを確かにできる情報を得るように）交流するのかを明確にする。 ☆後で必要な情報を聞き返したり、最初の自分の紹介内容と比較したりできるように、自分や他者の紹介の様子をタブレットで撮影してもよいことを伝える。
	4 同じ意見の人と共有しながら、自分の考えを確かにする。	
	5 イチオシの登場人物の紹介内容を再考する。	
		<ul style="list-style-type: none"> ・交流を通して広がったことや深まったことを踏まえ、イチオシの登場人物の紹介内容を再考するよう伝える。 <p>□〔思考・判断・表現〕文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものになっている。</p>
終末	6 今日の学習の振り返りをする	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習を通して「できるようになったこと」や「次の発表に向けて生かしたいこと」を振り返り、全体で共有する。